



飛島の見どころ

飛島は、酒田港より北西に約39kmの距離にあり、山形県の最北かつ最西に位置します。周囲を暖流(対馬海流)が流れており、年平均気温は12度以上と暖かく、積雪もそれほどありません。この海流によりもたらされる温暖な気候により、北と南の動植物が混在しています。

飛島は、海底から隆起した陸地が波によって削られ、ほぼ扁平な海食台地が形成されたものと考えられており、その台地は、タブノキやヒサカキなどの常緑広葉樹を始め、ムベ、ヤブミョウガ等暖地系植物とオオイタドリ、オオバナノミノナガサ等の寒地系植物が混生しています。また、海岸近くでは、オニユリや、固有種であるトビシマカンゾウなどユリ科の花が、初夏に黄色やオレンジの群落をつくります。

海では、スルメイカやトビウオなどの暖流に乗った魚のほか、タラやメバル、大型のタイ類やワラサなど豊かな恵みをもたらします。

飛島は渡り鳥の中継地で、春と秋にはたくさんの野鳥が羽を休めて行きます。普段は観察しづらい種類の鳥を比較的簡単に観察することができ、本来は日本で見ることができない大陸の野鳥、いわゆる珍鳥・迷鳥もたびたび観察されています。

島内には、縄文時代前期からの遺跡が存在し、江戸時代には大阪から北海道を行き来する北前船の風待ち港、避難港として重要な位置を占めていました。また、昭和38年には、鳥海国立公園の一部に指定され、平成28年9月に日本ジオパークに認定されました。

飛島の歴史

島内には、約6千年から4千年前の縄文遺跡が3つあります。北陸から北東北にかけて出土する種類の土器が発掘されており、古くから海を介した交流があったことがうかがえます。

島は平安時代から江戸時代にかけて、安部氏、仁賀保氏、最上氏、酒井氏等の所領となり鶴路島(つるじま)、湖島(うしおじま)、豊島(とよしま)、とど島などと呼ばれ、今から約400年前の江戸時代に現在の飛島という名前になりました。

とびしま歳時記

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
食	冬 岩のり・カスベ・アワビ・ハマコ・ヤリイカ・タコ・タラ			春 ワカメ・アラメ・メカブ・カメナデ・クンメ・ホッケ・メバル・スカドリ・島竹			夏 トビウオ・サザエ・いさぎ・イカ・もずく・えご・グッチョ・ごども・トビシマカンゾウ		秋 ヤリイカ・アワビ・おはだこ・塩辛・ソナ			
釣り		ヤリイカ	タラ	タラ	メバル	メバル	メバル	メバル	メバル	メバル	メバル	メバル
野鳥				ムクマキ キビタキ オオルリ	コホオアカ ヤツガシラ	ムクマキ キビタキ オオルリ	ムクマキ キビタキ オオルリ	コホオアカ ヤツガシラ	コホオアカ ヤツガシラ	コホオアカ ヤツガシラ	コホオアカ ヤツガシラ	コホオアカ ヤツガシラ
植物				オオミスミソウ エゾエンゴサク キクザキイチゲ	オオバナノミノナガサ カニコソウ	オオバナノミノナガサ カニコソウ	トビシマカンゾウ	トビシマカンゾウ	トビシマカンゾウ	トビシマカンゾウ	トビシマカンゾウ	トビシマカンゾウ
生活	タラ・カニ漁、イワリ採り			ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り	ワカメ・アラメ採り

TOBISHIMA SAIJIKI

春夏秋冬の季節につながる食や釣り、野鳥・植物や生活に関わる情報あれこれ。

釣り Fishing

御積島、島帽子群島、二保島

【島渡し・船釣り】
御積島周辺と島帽子群島、二保島などの岩場や船釣りでは、60cmを超える大型のマダイ、クロダイ、コブダイ、イシダイ、メジナなどがあがります。

【島内】
防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

POINT
磯渡しや船釣りは、宿泊する旅館・民宿で手配してくれます。

バードウォッチング Bird Watching

ヤツガシラ(3月下旬～6月上旬)

飛島は渡り鳥の中継地として名高く、春(4月下旬～6月中旬)と秋(9月下旬～11月中旬)には日本では珍しい大陸系の鳥などが通過していきます。約300種類の鳥が記録されています。

長旅の疲れを癒す渡り鳥が畑を探索する姿やフェンスに止まる姿がたのしみ観察されています。普段は目にするのが難しい珍鳥の姿を間近に観察することもできます。

野鳥観察の定番は、農免道路周辺の畑を北に向かい、山グラウンド、緊急ヘリポート、とびしま総合センターへと島内一周するコースです。

POINT
珍鳥の観察は、野鳥の発見情報の入手が一番の早道です。初心者には観察会への参加や専門家ガイドの依頼がおすすめです。畑、小中学校の敷地には無断で入らないようにしましょう。

絶景・朝日・夕日 Superb View

館岩から飛島を望む

【館岩】
定期船の入出港、勝浦・中村集落が見渡せます。

【海岸遊歩道】
御積島・島帽子群島が見渡せます。

【荒崎海岸】
日本の落日鑑には選ばれた景勝地です。春にはスカシユリ、初夏にはトビシマカンゾウ、盛夏にはオニユリが群生しています。

【八幡崎・渚の鐘】
荒崎から田下まで西海岸を一望できます。

【島崎】
寺島周辺のエメラルドグリーンの海、日本海の向こうには鳥海山が浮かび上がります。

POINT
朝日は鳥海山の方向から昇り、夕日は御積島・島帽子群島の方向に沈みます。夕日が沈むと周囲が暗くなるので注意が必要です。また、旅館・民宿の食事の時間を十分確認してから出かけましょう。

磯あそび Rocky Shore Play

小松浜海水浴場

【小松浜】
飛島唯一の海水浴場で周囲が岩場で囲まれた地形のため、波の出入りが少なく安心して遊べます。西側には桟橋があり、シュノーケリングでは磯辺の生き物や小魚が群れをつくる様子が観察できます。夜になると海中で夜光虫がキラキラと光る光景が楽しめます。

【荒崎、ゴト口浜、オボケの浜】
遊歩道はありませんが、海沿いを歩きながら貝殻拾いや磯歩きが楽しめます。また、海岸には緑色火山弾、石英脈の破片、港結凝灰岩など、珍しい岩が転がっています。

POINT
海藻やサザエなど魚介の採取行為は禁止されています。磯遊びは、危険が隣り合わせのため、常に緊急避難を念頭に行動しましょう。

花・木 Flowers and Trees

トビシマカンゾウ(6～7月)

【トビシマカンゾウ】
初夏には黄色やオレンジの花が、初夏に黄色やオレンジの群落をつくります。

【オオバナノミノナガサ】
初夏にはオオバナノミノナガサなどのユリ科の花が、初夏に黄色やオレンジの群落をつくります。

【オニユリ】
初夏にはオニユリが群生しています。

【メバル】
初夏にはメバルが群生しています。

POINT
鳥海山・飛島ジオパークガイドの会、酒田観光ガイド協会が案内してくれます。

ダイビング Scuba Diving

スキューバダイビング

【ダイビング】
島の周辺は対馬海流の影響で、東北の海とは思えないほど温暖で透明度が高く、貴重なサンゴが群生し亜熱帯性の魚が生息するなど、ダイビングに最適です。

初夏、御積島近くの海中洞窟では、産卵のために訪れるドデサメを観察することもできます。

館内側(港側)は飛島サンゴ類群棲地として県指定天然記念物に指定されており、ムツサンゴ、東北では珍しいオノミチキサンゴが群棲しています。

POINT
ダイビングをするには、事前に資材の準備、運搬、船の手配が必要です。県内のダイビングショップにお問い合わせください。御積島周辺は、サザエやアワビの漁場となっているため配慮が必要です。